

1・17「ひょうご安全の日」を迎えて

皆さん、先週の金曜日に防災訓練を実施しました。この日が「ひょうご安全の日」と制定された訳は分かりましたね。

皆さんがまだ生まれていなかった時のことです。しかし、3・11の東日本大震災については皆さんも記憶に新しいところだと思います。そして、東北地方の人達は、この経験を決して忘れることなく、この災害から自然災害に対する脅威と備え、命の大切さを学び取り、長く後世に伝えていこうと様々な取組をされていることは、テレビや新聞等の報道で伝えられ知っていることだと思います。

改めて、兵庫県に生まれ育った君たちに問いかけます。平成7年1月17日午前5時46分に「阪神淡路大震災」が有りました、当時の様子など体験されて方からお話を聞いたことはありますか。HAT神戸にある「人と防災未来センター」に行き当時の様子を体験したり学んだことはありますか。6434人の死者を出し43792人のけが人を出した大災害を経験し復興を成し遂げた兵庫県に生まれ育った者として、東北地方の方々のように「自然災害に対する脅威と備えや命の大切さ」を学び取り、次世代へと伝えていけるでしょうか。



あの日を思い出すと・・・ゴーという地響きのような音がした後に突然、布団から体が浮き上がるほどの衝撃が有り、その後大きな揺れが来ました。目が覚めると同時に隣で寝ていた子どもたちの上に覆い被さり、「大丈夫だよ」って声をかけながら片足で足下のタンスが倒れてこないように踏ん張っていたことを思い出します。

台所や居間では、食器棚や本棚が倒れガラスや食器が割れる大きな音がしていました。揺れが収まり部屋を出て、居間や台所を歩けるように片付けてから、学校へ向かいました。我が家は当時マンションだったので住居の被害はさほどでしたが、学校に近くにつれいつもと景色が違っていました。新幹線の橋脚が落ちて線路が空中に浮いていたり、2階建ての家が1階になっていたり、学校に到着して片付けをしてから、生徒の安否確認に校区を巡回



して回ると、つぶれたアパートに生き埋めになった生徒もいました。

武庫川の橋と道路の段差が、50cmほどになり車も通れない状況なので歩いて渡ると尼崎よりも被害がひどくほとんどの家が倒壊していました。ニュースを見ると阪神高速道路が倒れ、神戸市内では火災が起きてどうしようもない状況でした。

二度とあのような体験はしたくないですし、今最も心配される南海・東南海の地震に伴う津波被害になると東日本大震災のニュース映像が思い出され背筋が凍る思いです。

日頃からの訓練と心構えが必要です。『備えよ常に！』

「成人の日の集い」に出席しました

13日にバイコム総合体育館で、『成人の日の集い』が開催され出席してきました。オープニングを市立尼崎高等学校の吹奏楽部が、式典に相応しく華やかな演奏で新成人を迎えていました。



今年の新成人は、少子化の時代の中で生徒数が最も少なかった学年になり、教育改革の走りで『ゆとり教育』が取り上げられた時代の子どもたちです。

式典が始まる頃には例年よりも多くの参加者が会場内を埋め尽くし、整然と式典が始まりました。高校を卒業し大学生となっている者、一足先に就職し社会生活を営む者、様々な環境の違いはありますが、中学や高校時代の同級生を見つけては、お互いに久々の再会を喜びあい、とても楽しんでいました。

男の子はほとんどがスーツ姿でしたが、たまに純和風で羽織袴姿も見かけられました。女の子は、逆にほとんどが純和風の振り袖姿でした。また、在日外国人の多い尼崎市らしいなと思ったのは、民族衣装に身を包み出席している人も見かけました。

今年はとても良い天気恵まれて良かったですが、去年は土砂降りの雨の中で着物姿の女の子たちが可哀想でした。さて君たちが成人式を迎える時はどんな格好で参加するのでしょうか。それからお天気は？

入試本番！ 後に続け1・2年生！

3年生の諸君！私立高校によってはスポーツ推薦等がすでに始まっています。24日には私学受検の願書一斉提出になります。2月の初めには公立高校の推薦入試の出願と次々に入試日程が迫ってきます。体調管理に十分に気を付けて、いよいよ最後の追い込み本気モードで頑張ってください。面接の練習も大切ですから話す内容をしっかりと事前にまとめておきましょう。

《卒業式まで残り35日》

2年生の諸君！2月に市内統一のテストが実施されます。これは、来年度に実施される高等学校通学区域再編に向けての進路対策事業の一環として実施されるものです。と言うように、君たち2年生の平成27年度入試に向けての準備はすでに始まっていると言うことです。流れに乗り遅れることの内容に少しでも早く準備に取りかかって下さい。

1年生の諸君！先輩たちの取組をしっかりと見て、感じて、将来を見据えた充実した中学校生活を送れるよう学習や部活動、学級や学年の活動等々に意欲的、積極的に取り組む姿勢を身につけよう。

〈今月のことば〉 『 限界 』

これ以上できないというほど精一杯やったにもかかわらず思うような成果が
あがらないと、人は誰も、これが自分の限界ではないかと考える。

だが、あきらめるのはまだ早い。結論を出すのは最後の最後でいい。自分で
決めつけているだけで、限界は自分で考えているよりもはるかに先にある。

そう思いを定めて、いま一歩踏み出す勇気と努力を大切に。